教科	科目	単位数	学年次	集団
地理歴史	歴史総合	2	1年	普通科

使用教科書	副教材等
歴史総合 近代から現代へ（山川出版社）	新詳歴史総合（浜島書店）

科目の目標
<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を迫り解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点とその趣旨
<p>① 知識・技能</p> <p>世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>
<p>② 思考・判断・表現</p> <p>時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>
<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。</p>
評価方法
<p>各種テスト 授業ノート・プリント類の記述 提出物の取り組み状況</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	第1章結びつく世界	1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	16世紀以降のヨーロッパ諸国による世界の一体化進展と、そのヨーロッパ諸国の変化のありようを考察・表現し、またヨーロッパ以外の地域との関係について理解する。	○	○	○
5	第2章近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19世紀前半のヨーロッパ 4 19世紀後半のヨーロッパ	18・19世紀の欧米諸国の政治的変動と経済活動と社会の特徴を考察・表現し、またアジア諸国の植民地化など欧米諸国とアジア地域との関係の変容なども考察・表現し、帝国主義の前段階の世界の歴史を理解する。	○	○	○
6		5 19世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国		○	○	○
7	第3章明治維新と日本の立憲体制	1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立憲体制	明治維新の政治変革の特徴、日本における国民国家形成の特徴や社会の変容などを考察・表現し、立憲体制の成立について理解する。	○	○	○

9	第4章帝国主義の展開とアジア	1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の展開 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響	欧米列強による帝国主義の進展と世界の分割のありようを考察・表現し、またその中における日本を含むアジア地域の変容を考察・表現し、第一次世界大戦をもたらすことになる世界の歴史を理解する。	○	○	○
10	第5章第一次世界大戦と大衆文化	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	第一次世界大戦の性格と惨禍、戦後の国際協調体制の特徴などを考察・表現し、総力戦と国民意識の変化について理解する。また第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察・表現し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	○	○	○
11	第6章経済危機と第二次世界大戦	1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満州事変 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争	世界恐慌の原因とその後の各国の対応の特徴を考察・表現し、日本を含むファシズム国家の成立と第二次世界大戦へ続く歴史過程を理解する。また第二次世界大戦の惨禍と大戦下の社会生活を考察・表現し、戦争が人間にとって如何なるものなのか理解する。	○	○	○
12	第7章戦後の国際秩序と日本の改革	1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立	国連を中心とする第二次世界大戦後の国際秩序の特徴と米ソ対立の発生を考察・表現し、またアジア地域の独立と占領下の日本の政治社会の変化を考察・表現し、現代史の始まりとしての歴史を理解する。	○	○	○
1	第8章冷戦と世界経済	1 集団防衛体制と核開発 2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興 4 第三世界の連携と試練 5 55年体制の成立 6 日本の高度成長 7 核戦争の恐怖から軍縮へ 8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放	米ソ冷戦の激化とその後の平和共存、その中における日本を含む世界の諸地域の政治的経済的変容を考察・表現し、戦後の国際社会を理解する。	○	○	○
2	第9章グローバル化する世界	1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4 地域紛争の激化 5 国際社会のなかの日本	冷戦の終結に伴う国際政治の変化と市場経済のグローバル化の特徴を考察・表現し、その中における日本の役割について理解する。また、これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現のために、世界と日本の諸課題について考察・表現し、主体的に探究する。	○	○	○
	第10章現代の課題	1 現代世界の諸課題 2 現代日本の諸課題				

教科	科目	単位数	学年次	集団
公民	公共	2	1	1年次

使用教科書	副教材等
高等学校公共（帝国書院）	高等学校公共ノート（帝国書院）

科目の目標 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動をとおして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
② 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法
記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 （定期テスト、ワークシート、課題レポートやその他提出物、グループワークや発表等への取組状況、授業への取組状況等）

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
	A 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち	第1章 社会の中の私たち I 青年期と社会参画 1 私たちの生きる現代社会 2 青年期について考えよう 3 悩むことについて考えよう 4 ジェンダーについて考えよう 5 学ぶことについて考えよう 6 社会参画とキャリアについて考えよう II 宗教・思想・伝統文化と社会 1 宗教について考えよう 2 日本の思想について考えよう 3 日本の伝統と文化について考えよう	① 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 ② 人間は個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し、高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ③ 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間をつくり出し、自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 ④ 社会参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ 公共的な空間を作る私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	○	○	
	(2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方	第2章 思想から学ぶべきもの I 倫理的な見方・考え方 1 よく生きる 古代ギリシャの思想	① 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる厚生などの義務を重視する考え方などについて理解する。 ② 現代の諸課題について自らも他者もともに納得できる解決方法を見いだすことに向け、①に示す考え方について探究することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。 ③ 人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			

	<p>2人とは何か 古代中国の思想</p> <p>3動機と結果 近代西洋の思想</p> <p>4公平と正義 現代の思想</p>	<p>るために必要な情報を収集し、読み取り、まとめる。</p> <p>④倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者ともに納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などの概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>⑤公共的な空間における人間としての在り方生き方について、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	○
(3) 公共的な空間における基本的原理	<p>第3章 私たちの社会の基本原則</p> <p>I 社会の基本原則と憲法の考え方 1 近代立憲主義の原理</p> <p>2近代立憲主義の広がり</p> <p>3日本国憲法</p> <p>4平等に生きる権利</p> <p>5自由に生きる権利①</p> <p>6自由に生きる権利②</p> <p>7人間らしく生きる権利</p> <p>8広がる人権の考え方</p> <p>9人権保障の国際的な広がり</p>	<p>①各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。</p> <p>②人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原則について理解する。</p> <p>③公共的な空間における基本原則について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>④公共的な空間における基本的原理について、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	
B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	<p>第1章 私たちと法</p> <p>I 法の意義と司法参加 1社会規範と法</p> <p>2私たちの生活と法</p> <p>3契約の考え方</p> <p>4消費者の権利と責任</p> <p>5司法の役割</p> <p>6刑事裁判とその課題</p> <p>第2章 私たちと政治</p> <p>I 民主社会と政治参加 1政治と権力</p> <p>2議院内閣制と国会</p> <p>3権力分立と行政の役割</p> <p>4地方自治の役割</p> <p>5政党政治とメディア</p> <p>6選挙制度とその課題</p> <p>II 国際政治の動向と平和の追求 1 国家と国際法</p> <p>2日本の主権と領土</p> <p>3平和主義と日本の防衛政策</p> <p>4これからの日本の安全保障</p> <p>5国際連合の役割と活動</p>	<p>①法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成維持されていくことについて理解する。</p> <p>②政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</p> <p>③職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の動き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)等に関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重をともに成り立たせることが必要であることについて理解する。</p> <p>④現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。</p> <p>⑤上記①から③迄の事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って実現する。</p> <p>⑥自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>			

	6紛争とテロリズム			
	7核兵器と軍縮の課題		○	○
	8国際協力と日本の役割			
	第3章 私たちと経済			
	I 市場経済のしくみ			
	1経済とその考え方			
	2市場のメリットと限界			
	3企業の目的と役割			
	4金融の役割			
	5政府の役割と財政の機能			
	6日本の財政の課題			
	7経済の変動			
	II 豊かな社会の実現			
	1産業構造の変化と職業選択			
	2中小企業と農業			
	3労働者の権利			
	4雇用と労働に関する課題			
	5社会保障の役割と意義			
	6社会保障制度の課題			
	III 国際経済の動向と格差の是正			
	1 国際経済のしくみ			
	2国際経済の枠組み			
	3地域経済統合			
	4グローバル化と自由貿易協定			
	5国際経済の変化と課題			
	6経済格差の是正			
C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	第3部 持続可能な社会の実現に向けて	①地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標しにて論拠を基に自分の考えを説明、論述する。 ②持続可能な社会づくりの主体となる私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	○	○